

歯科衛生士教育における 下級生が上級生に教わる 臨床体験実習の実施と評価

小原由紀¹⁾, 須永昌代²⁾, 近藤圭子¹⁾, 木下淳博²⁾

1) 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科
口腔疾患予防学分野

2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
教育メディア開発学分野

1. 背景

歯科衛生士教育における 早期臨床教育の必要性

- 臨床に必要な知識と技能の修得
- 患者とのコミュニケーションスキルと信頼関係を築く機会の獲得

従来までの歯科衛生士教育

～3年前期

講義



基礎実習



コンピューター
シミュレーション



相互実習



3年後期～

臨床・臨地
実習



学生用診療室に
おける臨床実習

O
S
C
E

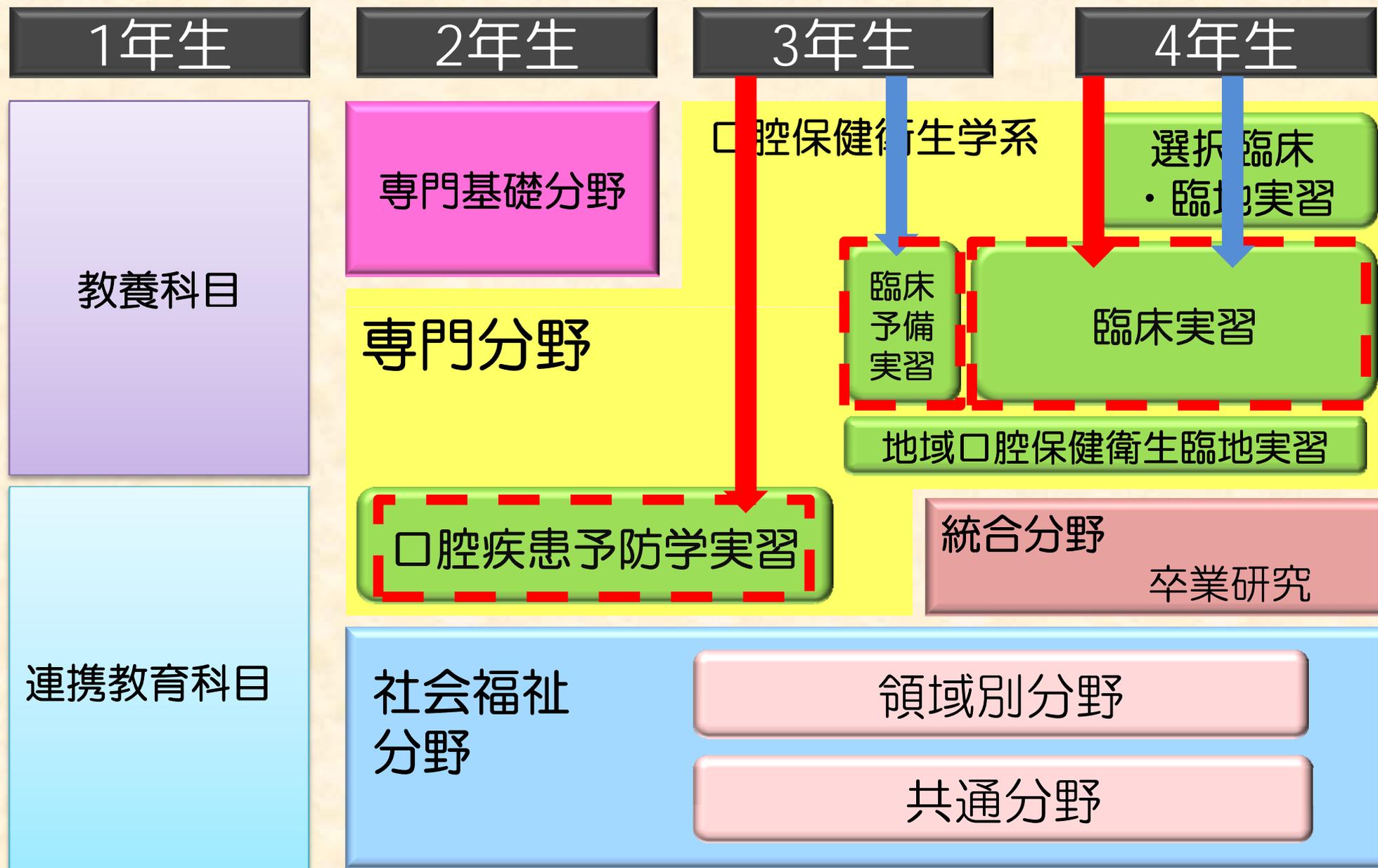
上級生が下級生に教える屋根瓦方式の教育システムは、教える側の理解を深め、教わる側の学習へのモチベーションを高める方法として知られている



本学歯学部における屋根瓦方式による教育システムの導入

2006	歯学科4年生 臨床体験実習2での導入
2007	日本歯科医学教育学会・第6回教育システム開発賞受賞 大山 篤、関田俊明、長澤敏行、南 一郎、渡辺希江、 俣木志朗、木下淳博：歯学科4年生が臨床実習中の6年生に 教わる臨床体験実習プログラムの開発、第26回日本歯科医 学教育学会学術大会発表
2008	「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」採択 →歯学部全体の取り組みへ
2009	口腔保健学科での導入

臨床体験実習の実施スケジュール



本プログラムの目的

3年生

- 臨床現場における実習を通して、上級生のアシスタントを行い、臨床上必要な知識や患者さんへの対応を学ぶ
- 3年後期から始まる臨床実習に向けて、具体的な目標を持つ

4年生

- 学生用診療室で、下級生に教える経験を通して、自らの臨床における知識と技能を深める

学生用診療室における臨床実習体験実習



バキューム操作



器具の準備



診療録からの情報収集

記録の補助

3年生の実習記録

実習日	2009年 6月 9日
患者ID	患者イニシャル N.J
担当OH4事務処理番号・氏名	担当OH4実施承認印またはサイン
番号	氏名
番号	ライター実施承認印

本院での診療開始日 H1

現時点での（または初診時の）主訴（気になる）
 リコールのほかさか痛いたので来
 (初診時)歯に物がはさまる
 前回TBI
 スーパーフロムの歯肉炎

現時点での（または初診時の）主訴に関する
 以前は仕事かたせしほのかか来
 ・ブラッシング歯間ブラシ 毎食後 スーパーフロス 1回/10日
 ・PCR 23.4% EEP ≤ 4mm
 ・T7 動揺度 2 (経過観察)

既往歴 (全身疾患・薬歴等)
 骨粗鬆症：抜歯やインプラントなどの外科的処置や局所感染に
 (注意すべき薬剤) 十分注意をする。顎骨壊死、顎骨骨髓炎に注意。
 ・ビスホスホネート系製剤(骨吸収抑制剤)
 ・アレドロン酸ナトリウム水和物
 ・リセドロン酸ナトリウム水和物
 (フォサマック錠、ボナロン錠、ベネット錠、アクトネル錠)

主訴

歯によく物がはさまる
冷たいものがしみる

現病歴

既往歴 骨粗鬆症

注意すべき薬剤

抜歯やインプラントなどの外科処置や
局所感染に十分注意する

顎骨壊死や顎骨骨髓炎に注意

ビスホスホネート系製剤（骨吸収抑制）

アレドロン酸ナトリウム水和物

リセドロン酸ナトリウム水和物

（フォサマック錠、ボナロン錠、

ベネット錠、アクトネル錠）

薬理や病理については勉強したが、現時点で覚えていることは少なく、今の私は、とても知識不足だと感じ、外来に出るまでには、きちんと復習しておかなければならないと強く思った。

実習日: 2009年 6月 9日

実習目標
患者誘導や問診など、患者対応やコミュニケーションスキルを学ぶ。診療室での口腔ケアの流れを学び、今後の相互実習に生かす。
考察
今回の患者さんは、義歯外来で、「歯が汚れているので、正しい歯磨きの仕方を教えてもらって来て下さい」と言われて、初めて北2に来た患者さんだった。初診の患者さんということで、4年生は、カルテを念入りにチェックしていた。牛手に薬歴の確認では、服用している薬剤がどのようなものかというだけでなく、その薬剤が口腔内におよぼす影響や治療時に注意しなくてはいけないことなどを矢張り問診で細かく確認していた。授業で、薬理や病理については勉強したが、現時点で覚えていることは少なく、今の私は、とても知識不足だと感じ、外来に出るまでには、きちんと復習しておかなければならないと強く思った。問診時には、現在の体調から習慣まで、さまざまなことを質問していた。これらの質問の仕方は、とてもスムーズで、また4年生は笑顔で話していたので、患者さんも多くのことを安心して話しているように見えた。私の場合、問診をする際、どうしても頭で覚えた台詞をそのまま言ってしまう。その場に合わせて内容を変えたり、細かくきいたり、うまく出来ていないのが改善していきたい。また、4年生が問診の際に、意識して患者さんに聞いていること

4年生が問診の際に、意識して患者さんに聞いていることとして、「お口の中をどのようにしていきたいか」を必ず聞き、介入方法を考えていると言っていた。私も工夫して患者さんとコミュニケーションをとり、口腔ケアを実践できるようにしたい。

4年生から3年生へのフィードバック

臨床体験実習 コメントシート

口腔保健学科4年 事務処理

担当 OH3 学生 事務処理番号: [REDACTED]

実習年月日 H21. 6. 9 患者 ID・イニシャル [REDACTED]

3年生へのコメント

私自身の手際が悪く 90分の診療時間内に終わることができなかつたため、あわただしく、[REDACTED]さんが疑問に思ったことや知りたかったことを十分説明できなかったように思います。ごめんなさい。PCRを記録してもらったバキュームを手伝ってもらったこと、大層助かりました。ありがとうございます。今回一緒に診てもらった患者さんは8才にして残存歯が27本、ホケムも7歯に4mmの4mmがあるので口腔内は健康であると思えます。PCRを見ると磨き残しは多く、食物残渣も認められ、ブラッシング時に鏡を見ず習慣がないことや歯磨きの目的を「歯にはまったものを取り除くこと」と考えていること(→歯垢を減らしたいので歯頸部の歯磨きは患者にとって重要なこと)など問題点はたくさんあります。もちろんこの問題を放っておくわけにはいきません。しかし本人が初物の時に話して下った「健康な歯は長生きの意味がない」という価値観やこれまでの8年間つかわれてきた生活習慣を尊重すること、現状として口腔内が健康であることと考えると TBIでフランクが残っているよ!!と指導したり鏡を見て下さい!!と行動変容を促すことよりも、自身でフランクコントロールで生る部位をコントロールさせる指導をいかにと考えると介入しました。昔、日本にフロスやIPBがなかったころから海外より取り寄せて使っており、今も時々フロスを指導方法で使っているけれど、手先は器用だと考えられるので、これらを駆使すれば自身でもフランクコントロールで生る可能性は高いと思えます。なので、どのように介入するのがこの患者さんにとって最善なのかは私も試行錯誤している段階です。次回6ヶ月後にまた北2に来院される予定なので、その時の検査結果で自分の判断が正しいかどうか確かめたいと思います。このようにTBI 1つをとっても患者さんへの知識の介入には責任を伴いますがそれがやりがいでもあるのかなと思います。患者さんと話すのはとても楽しいので、秋からの臨床実習がんばって下さいね!

疑問に思った事や知りたかったことを十分説明できなかったように思います。

どのように介入するのが、この患者さんにとって最善なのかは、私も試行錯誤している段階です。

TBI 1つをとっても患者さんへの私たちの介入には責任を伴いますが、それがやりがいでもあるかなと思います。患者さんと話すのはとても楽しいので、秋からの臨床実習がんばって下さいね!

2. 方法

相互実習中の前期及び臨床予備実習中の後期に、下級生である3年生が診療のアシスタント、検査の記録、歯科衛生業務記録の記入方法などを、上級生の4年生から教わる臨床体験実習を実施した

実習後に臨床体験実習に関する評価と自由記述による回答を求めた

対象

本実習に参加した3年生20名4年生24名
計44名（回収率100%）



3. 結果 3年生

単位：人

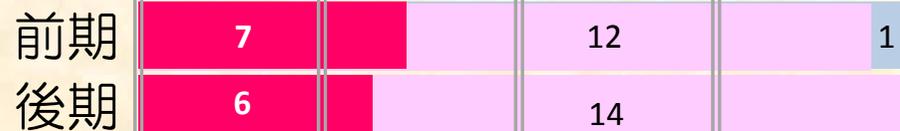
そう思う

どちらかという
と、そう思う

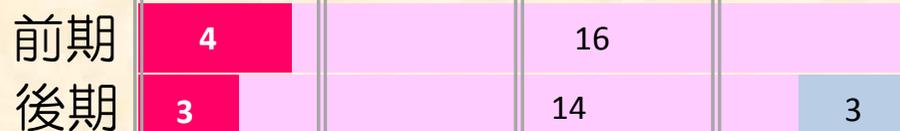
どちらかという
と、そう思わない

そう思わない

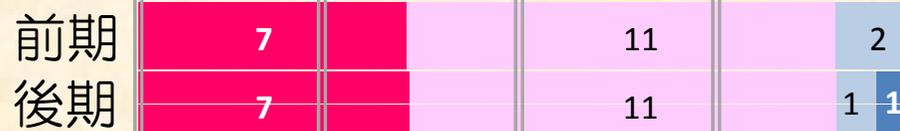
体験実習の学習目標を達成できたと思いますか



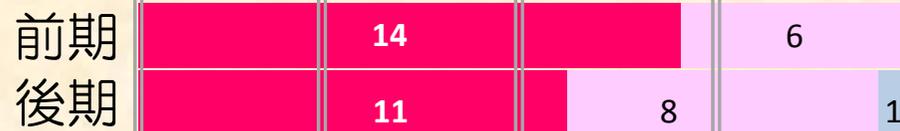
患者の全体像を把握できたと思いますか



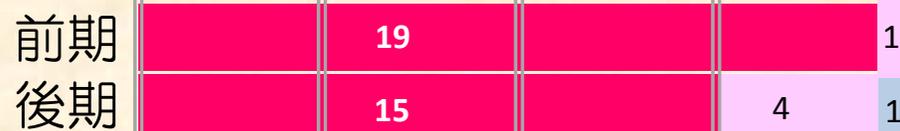
口腔ケア実習の流れを把握できたと思いますか



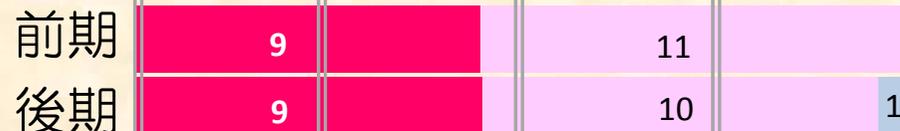
体験実習に興味を持ちましたか



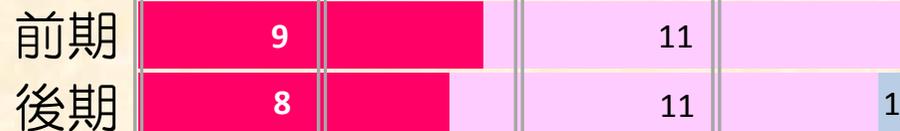
今回の経験が将来役に立つと思いますか



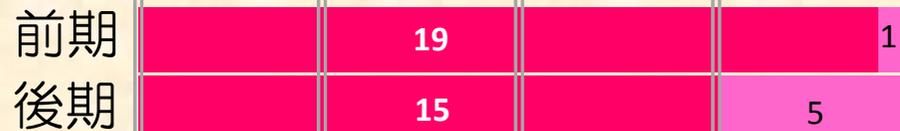
体験実習を通して他の講義や実習に関心を持ちましたか



体験実習をもっとやりたいですか



体験実習を今後も継続するべきだと思いますか



3. 結果 4年生

単位：人

そう思う

どちらかという
と、そう思う

どちらかという
と、そう思わない

そう思わない

体験実習は3年生にとって学習効果が高い
と思いますか？

9

15

体験実習は4年生にとって学習効果が高い
と思いますか？

10

13

1

体験実習に興味を持ちましたか？

11

12

1

今回の経験が将来役に立つと思いますか？

10

14

体験実習を通して他の講義や実習に関心
を持ちましたか？

7

13

4

体験実習をもっとやりたいですか？

7

13

3

1

体験実習を今後も継続するべきだと思いま
すか？

11

12

1

学生の感想（3年生）

- もっと早く実施してほしかった
- 自分にとっての課題を見つけることができた
- 臨床現場での緊張感を味わえた
- 実際の流れがわかったし、補助をして気づいたこともたくさんあったので勉強になった
- 実際に見て、体験することで、4年生時にすべきこと、これからすべきことが少し具体的になってきた気がする
- 診療室の広さに対して、中にいる人の人数が多すぎる気がした
- 4年生がどのように対応しているかを実際に見て学べた

学生の感想（4年生）

- 教えることにより知識を改めて確認できた
- 自分自身の知識内容や技術面を再度考えなおす機会になった
- 社会に出ると、後輩に伝えたり教えたりすることがあると思うので、分からない人に対しての説明の仕方や指導の仕方を学ぶ上で、いい機会になった
- 教える側としては、見られて診療を行うので少々緊張した
- 3年生自身が患者さんともう少し触れ合えるような機会をもてればと思った
- 今の4年生は、臨床体験実習を経験していないが、体験した方がよいと思った
- あまり時間もなくてしっかり説明できなかった

考察

- 体験実習に対する学生からの評価は高く、早期の実施や複数回の実施を望む声も見受けられた
- 限られた実習期間では、得られる知識や経験には限界があるため、本結果をふまえ、より効果的に実施できるように実習時期や回数等さらなる検討が必要であると考えられた

考察

4年生からの評価の中には、一部で否定的な意見が見受けられた

上級生である4年生は、負担を感じている可能性が考えられる。教える側である上級生への心理的負担感について考慮が必要である

結論

歯科衛生士教育における下級生が上級生に教わる臨床体験実習に対する学生の評価は高く、今後もシステムの継続と充実を図る必要がある